

銅原料、今月はタイト感緩和か

橋本健一郎 氏リポート①

■概況

七月前半はポルトガル最大の銀行、バンコ・エスピリト・サントの短期債務返済見送りによる株式取引停止報道や、中国貿易統計で輸出、輸入ともに事前予想を下回るなどのマイナス材料もあつたが、注目の六月の米雇用統計で米非農業部門雇用者数は二八・八万人増加、予想の一・五万人増を上回った。失業率は六・一%に低下、予想の六・三%を下回る改善を示した。米週間新規失業保険申請件数は三一・五万件に増加、予想の三二・三万件を上回り、五月の中国HSBC製造業PMIは五〇・七に下方修正、ただし前月の四九・四からは改善したことなどを好感しLME銅相場は上昇した。

七月十五日現在七、一五四ドル(セツル)と前月最終価格より一七八ドル上げての前半締めとなつた。

後半は中国の新規融資額が一兆〇、八〇〇億元、予想の九、一五〇億元を大幅に上回ったこと、六月の中国の粗鋼生産は一日平均二三一万トンで過去最高を記録。2Qの中国のGDP伸び率は前年比七・五%増で予想の七・四%増を上回る。六月の中国鉱工業生産は前年比九・二%増加、予想の九%増加を上回るなどプラス材料もあつたが、EU首脳会談で、ウクライナ情勢を巡り対ロシア制裁強化で合意したこと。米、ロシア石油最大手など四社を中心とした追加制裁を発表したこと、インドネシアFreeportの銅鉱石輸出再開したことから下落した。

八月四日現在、前半締めから七八ドル下落の七、〇七八ドル。銅建値七八万円のスタートとなつた。

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・六%増の八五万七、三一七台であつた。

◆新設住宅着工戸数 国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比六・六%減の七万五、七五七戸であつた。

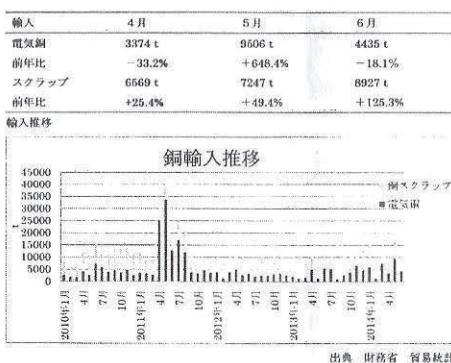
住宅着工、自動車は生産堅調、販売微増
なお大幅減

数は前年比九・五%減の七万五、七五七戸であつた。

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が六・一%減、三万八、二五三t、スクランプが二・八%減の二万八、九七七t。

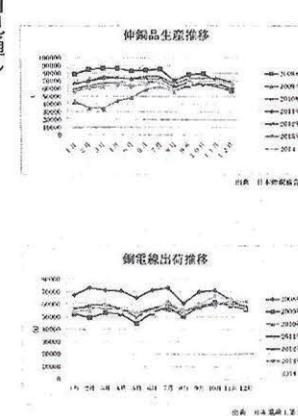
輸入は電気銅が前年比一八・一%減の四、四三五t、スクランプ一二五・三%増の八、九二七t。



日本電線工業会発表の出荷速報(速報)によれば、前年比六・七%増の七万〇、八二〇t。日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比七・六%増の五万八、二〇〇tであつた。

(六面へ続く)

四面より続く



■見通し

今月はロシア・ウクライナ情勢の行方及び中国の景気対応に一喜一憂した月となつた。

自動車生産は、八五万七、三一七台で、前年同月の八〇万四、一二五台に比べて五万三、一九二台。六・六%の増加となり、一〇力月連続で前年同月を上回つた。

乗用車七二万七、六〇六台で四万七、八九五台・七・〇%の増加となり、一〇力月連続のプラストランク一万七、五二台で四、六三〇台・四・一%の増加となり、二力月連続のプラスバス一万二、一九九台で六六七台・五・八%の増加となり、三ヶ月ぶりにプラス輸出は前年同月比四・〇%の減少。(実績)

六月の国内自動車販売台数軽は除くは、二八万五、八八六台で前年比〇・六%増となり、四力月ぶりプラスうち、乗用車〇・三%増、貨物一%増、バス二四・一%増。

六月の住宅着工戸数は、七万五、七五七戸(前年同月比九・五%減)、季節調整済年率換算値で八八・三万台戸(前月比一・三%増)。前年同月比は四力月連続マイナスのところ、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあつて、実数では前年同月比で減少している。一方、季節調整値では、前年より若干の増とみた。

分譲マンションの着工については、建築費の上昇や人手不足等の影響により、契約・着工が先送りされているとの事業者の見方がある。このような状況や、持家における受注の減少が、今後着工の減少にどの程度の影響を与えるのか等について、引き続きその動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では五力月連続の減少(前年同月比一・八%減)、季節調整値の前月比五・〇%増)。

(賃貸)

前年同月比では一六力月連続の増加(前年同月比一・九%増)、季節調整値の前月比一・四%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では五力月連続の減少(前年同月比一・五%減)。

(分譲住宅)

前年同月比では五力月連続の減少(前年同月比一・九%減)、季節調整値の前月比一・四%増)。

(分譲マンション)

前年同月比では五力月連続の減少(前年同月比一・五%減)。

(仲銅品)

仲銅品生産は前年比六・七%増の七万〇、八二〇tと、一二力月連続プラスのうち内需五万八、九一三tで七・九%増と一〇力月連続プラス輸出一万一、九〇七tで一・四%増と、一五力月連続プラス。品種別では銅条二万一、二六〇tで四・四%増と、一二力月連続プラス、黄銅棒一万六、七八五tで一三・〇%増と、一二力月連続プラス。

銅電線出荷量は、前年比七・六%増の五万八、二〇〇t。うち、国内五・一%増、輸出が一六八・三%増。部門別では、通信〇・七%増、電力〇・四%減、電気機械九・五%増、自動車一・七%増、建設電線六・四%増。その他内需四・一%減。

輸入は電気銅が一八・一%減の四、四三五t。スクランプは二五・三%増の八、九二七t。電気銅は製造業者が比較的好調なもの、一円程度円安が進んだことによる割高感から減少。スクランプは国内発生屑の減少及び好調な内需から大幅増加したとの見解。

【銅電線】関して

住宅関連は新設住宅着工数が前年比九・五%減、持家一九・九%減、貸家一・八%増、分譲住宅一一・九%減、

分譲マンション二四・五%減と、貸家を除き大幅減少。消費税前の駆け込み需要も終了。四力月連続減少。消費税特需も終了。

自動車は生産が一〇力月連続上昇の六・六%増、また七月の国内販売台数が前年比〇・六%増と四力月ぶり微増。販売が微増はあるが四力月ぶり増加、また生産は堅調のため、来月以降に注目。

消費税前の駆け込み需要の反動から一本柱の住宅が減少傾向にあつた。ただ、自動車は販売生産共に戻している。共にこの水準で落ち着か注視したい。

スクランプは、為替が前月から変わらずの一〇二一〇三円(TTM)近辺だが、LME銅の上昇を受けて建値が七八万円付近まで上昇したこと、夏季休業から在庫分が出回り今月は需給が緩むのではないか。

【銅価格】関して

今月は、中国の景気対策 及び ロシア・ウクライナ情勢に左右される。

中国の景気対策に関しては、一部に限って行っていた住宅購入制限の撤廃を広げるなど住宅問題に手を付けている事や、銀行の融資規制を緩めるなどを行っており、またその効果が指標となつて表れ始めていることを考えれば今月は後退するとはないのではないか。

ロシア・ウクライナ情勢に関しては米欧が対ロシア制裁を強めているものの、欧洲についてはガス供給問題もぼらんでおり、制裁が一方的に進むとは考えにくい。
それから踏まえた八月の銅価格は、中国の景気回復がさらに進み、ロシア・ウクライナ情勢が少なくとも現状から悪化の無くなる場合、七月高値のもう一段高の七、二五〇ドルを予測。いずれかの場合七、一〇〇ドル。下値は一九〇〇ドル。

為替は先日のFOMC議会証言でFRBが利上げを急がず、米国の低金利政策は当面続々と受け止められたことから、当分は一〇二~一〇三円の水準が続くものの、ボルトガル債務懸念やイタリア情勢などの地政学リスクに左右されるのでは。
イタリア情勢やボルトガル債務懸念が悪化した場合は、洲経済に影を落とすとの判断の円・ドル高から上値は七月高値の一〇二円台。下値は変化なければ、一〇四円まで円安進むとの予測。
銅建値に関しては七五〇~八〇〇円程度と予測して